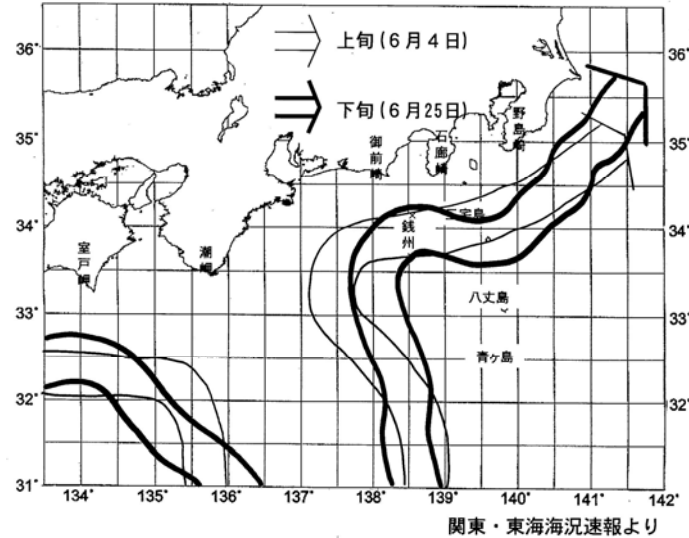


漁海況月報

令和元年6月1日

No.6 ~6月30日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



6月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	20.8	20.8	20.1	21.7	22.1	22.1
	1.0	1.6	0.7	1.2	1.5	1.6
中旬	20.9	21.5	20.9	21.0	21.3	21.7
	0.5	1.9	1.1	-0.3	-0.2	0.6
下旬	22.3	22.4	22.2	22.7	22.8	22.9
	1.0	1.8	1.5	0.5	0.6	1.1
月	21.3	21.6	21.0	21.8	22.1	22.2
	0.8	1.8	1.1	0.5	0.7	1.0

*地頭方の水温観測は終了しました。

【黒潮流路】

6月を通じてA型で、上旬は潮岬沖31°Nから南南東に進み、30°N、137.5°E付近まで南下した後、137-139°Eの間をS字状に北上し、三宅島の西34°N付近から東北東に流去した。中旬は潮岬沖30.5°Nから南東に進み、30°N、137.5°E付近まで南下した後、138-139°Eの間を北上し、遠州灘沖33-34°N付近で西に屈曲した後、34°N付近を東流し、三宅島付近から東北東に流去した。下旬は潮岬沖31°Nから南東に進み、30°N、138°E付近まで南下した後、138-139°Eの間を北上した後、34°N付近を東流し、三宅島付近から北東に流去した。

概ね月を通じて、黒潮が本県沖34°N付近を東流したため、遠州灘～相模湾沖の34°N以北に暖水が分布した。相模湾では、大島西水道からの暖水波及が断続的に見られた。

【県下沿岸域】

6月上旬は、伊東、下田、雲見「やや高め」、稲取、沼津、焼津「高め」であった。中旬は、雲見、沼津「平年並」、伊東、下田、焼津「やや高め」、稲取「高め」であった。下旬は、伊東、雲見、沼津、焼津「やや高め」、稲取、下田「高め」であった。

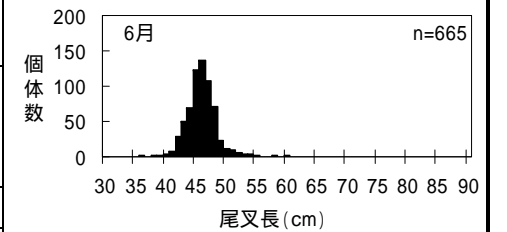
【竿釣りカツオ】

6月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚量は242トンで前年同月(113トン)の2.1倍であった。魚価は301円/kgで前年同月(420円/kg)を下回った。

漁場は33-35°N、136-139°Eの駿河湾沖や遠州灘沖などであり、水揚げされた魚体サイズは、小(尾叉長46cmモード)を主体に、極小(尾叉長42cmモード)、中(尾叉長50cmモード)などであった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R元年6月上旬	120	24	5.0	244
中旬	72	16	4.5	275
下旬	50	22	2.3	474
R元年6月計	242	62	3.9	301
H30年6月計	113	36	3.1	420
H29年6月計	115	32	3.6	404



御前崎港における尾叉長組成

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は176.9トンで前年の同漁場の水揚量(134.2トン)の1.3倍であった。また、1か統あたりの水揚量は、25.3トンで前年(19.2トン)の1.3倍、平年(昭和57年～平成30年の平均59.2トン)の43%であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場(45.8トン、ウルメイワシ、マイワシ、シイラ)、次いで伊豆山漁場(35.9トン、シイラ、ウルメイワシ、さば類)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)の通りで、さば類は29.4トンで前年比1.6倍、平年比28%、ゴマサバ主体であった。さば類のうち、マサバは7.8トンで前年比1.1倍、平年比43%、ゴマサバは21.6トンで前年比2.0倍、平年比23%であった。ブリは30.3トンで前年比1.3倍、平年比1.6倍、わらさ銘柄主体(27.0トン、前年比1.4倍、平年比2.5倍)であった。また、わかし銘柄の漁獲量が1.8トン(平年比23.4倍)と6月の漁獲量としては昭和57年以降最も多かった。ウルメイワシは26.7トンで前年比9.1倍、平年比6.6倍と、6月の漁獲量としては昭和57年以降、平成26年に次いで多かった。シイラは25.6トンで前年比8.9倍、平年比1.3倍であった。マイワシは25.0トンで前年比1.8倍、平年比82%であった。その他の魚種については、カンパチが0.6トン(平年比11.9倍)と6月の漁獲量としては昭和57年以降最も多く、モロが0.9トン(平年比2.8倍)と平成10年に次ぎ多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、次頁(表)の通りで、各漁場の漁獲量の割合は、さば類では北川漁場が41%(12.0トン)、古網漁場が15%(4.5トン)、ブリでは川奈漁場が42%(12.7トン)、谷津漁

場が30%(9.2トン) ウルメイワシでは古網漁場が59%(15.8トン) 伊豆山漁場が33%(8.7トン) シイラでは伊豆山漁場が42%(10.7トン) 古網漁場が20%(5.1トン) 北川漁場が14%(3.6トン) マイワシでは古網漁場が33%(8.3トン) 赤沢漁場が30%(7.6トン) 北川漁場が19%(4.8トン) を占めた。

(表) 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	29.4	1.64	0.28	北川、古網
ブリ	30.3	1.31	1.64	川奈、谷津
ウルメイワシ	26.7	9.12	6.59	古網、伊豆山
シイラ	25.6	8.93	1.25	伊豆山、古網、北川
マイワシ	25.0	1.84	0.82	古網、赤沢、北川

[サバ樺受網・たもすくい]

小川港所属の樺受網船は、上旬に一部の船が一時的にたもすくい操業を行ったが、その後は全ての船が樺受網操業を行った。漁場は月を通じて主にひょうたん瀬に形成されたが、後半以降、漁況は極めて低調となった。水揚量はマサバ19トン(前年同月比155倍) ゴマサバ402トン(前年同月比49%)であり、1隻あたり水揚量はマサバ1.2トン(前年同月0.0トン) ゴマサバ13.9トン(前年同月21.2トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ177円で前年同月(227円)を下回ったが、前月(81円)を上回った。ゴマサバは84円で前年同月(93円)を下回ったが、前月(85円)と同程度であった。

漁獲されたマサバの体長組成は尾叉長32cmと39cmにモードを持つ2峰型、ゴマサバの体長組成は尾叉長32cmにモードを持つ単峰型であった。

小川港 さば類(樺受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R1年6月上旬	19	335	4	15	1.2	22.3	177	77	ひょうたん瀬
中 旬		63	2	10		6.3		119	ひょうたん瀬
下 旬		4	1	4		0.9		98	ひょうたん瀬など
R1年6月 計	19	402	7	29	1.2	13.9	177	84	ひょうたん瀬など
H30年6月 計	0	827	10	39	0.0	21.2	227	93	大室出し、三宅、ひょうたん瀬
H29年6月 計	0	816	11	38	0.0	21.5	204	93	銭洲、三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

*表中の「-」は水揚げがなかったこと、「0」は水揚げがごく僅かであったことを示す。

[シラス船曳網]

県内主要6港における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が373kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が283kgであった。平均水揚量は321kgと前年同期(196kg)の1.6倍、平年同期(過去5か年平均:535kg)の60.0%であった。また、総水揚量は473.6トンで前年同期(212.5トン)の2.2倍、平年同期(815.9トン)の58.1%と、前年同期を上回り、平年同期を下回った。平均単

価は831円/kgと、前年同期(1,322円/kg)の62.9%、平年同期(483円/kg)の1.7倍と、前年同期を下回り、平年同期を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	34.2	10	129	265	741
舞 阪	112.7	10	390	289	913
福 田	67.6	10	255	265	863
御前崎	29.1	8	87	335	896
吉 田	117.7	14	266	443	782
静 岡	112.2	17	350	321	791
R元年6月計	473.6	69	1,477	321	831
H30年6月計	212.5	55	1,084	196	1,322
H29年6月計	485.8	71	1,296	375	606

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年同期:過去5か年(平成26~平成30年)平均値

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、伊東港では0.1トン(前年同月比5.2%、平年同月比0.3%) 静浦港では0.04トン(前年同月水揚げ無し、平年同月比64.6%) 沼津港では143.5トン(前年同月比57.2%、平年同月比36.5%) 小川港では41.1トン(前年同月比219.9倍、平年同月比76.0%) カタクチイワシは、伊東港では0.1トン(前年同月比3.6倍、平年同月比0.3%) 静浦港、沼津港、小川港において水揚げが無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは25.0トン、カタクチイワシは8.1トンであった。

*平年:過去5か年(平成26~平成30年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

6月 3日	公共用水域水質測定調査	(1日間)
6月 5日 ~ 6月 7日	地先定線観測調査	(3日間)
6月 11日	地先定線観測調査	(1日間)
6月 12日 ~ 6月 13日	いわし類卵稚仔分布調査	(2日間)
6月 17日 ~ 6月 20日	伊豆諸島周辺カツオ魚群分布調査	(4日間)
6月 24日 ~ 6月 25日	サクラエビ調査(卵数法)	(2日間)
6月 26日 ~ 6月 27日	サクラエビ調査(資源量)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

3月からホームページのアドレスが変わりました。

httpと://fish-expの間にsが追加され、https://fish-expになります。

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

